

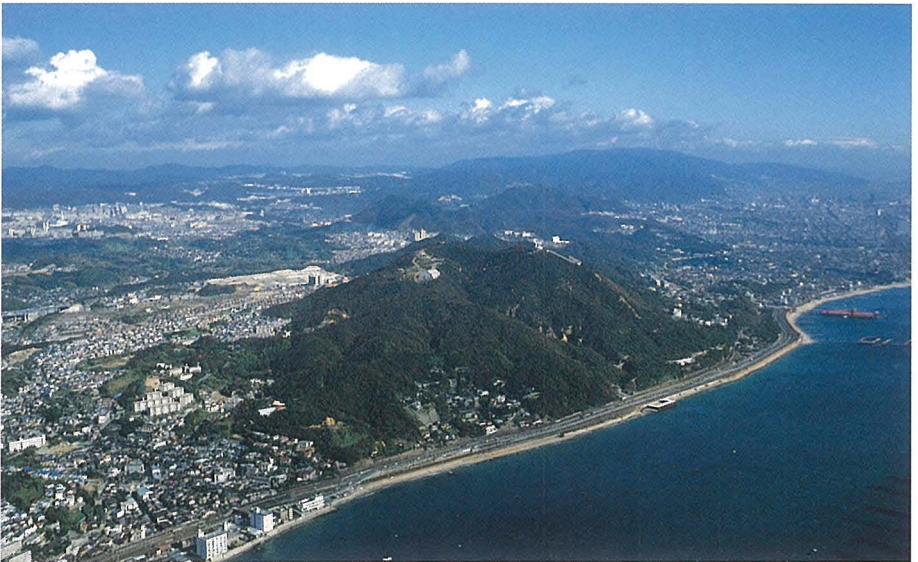
新修
神戸市史

歴史編 I

自然・考古



大阪湾上から見た六甲の隆起準平原



六甲の傾動地塊




1 六甲山地

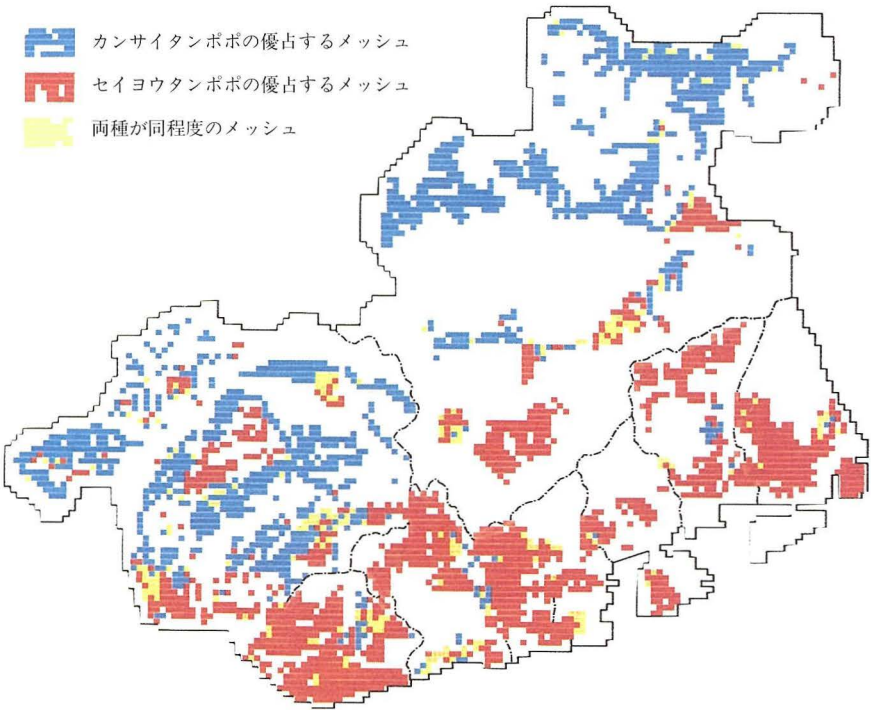


セイヨウタンポポ



カンサイタンポポ

-  カンサイタンポポの優占するメッシュ
-  セイヨウタンポポの優占するメッシュ
-  両種が同程度のメッシュ



カンサイタンポポとセイヨウタンポポの分布 (1986～87年)

2 タンポポの分布



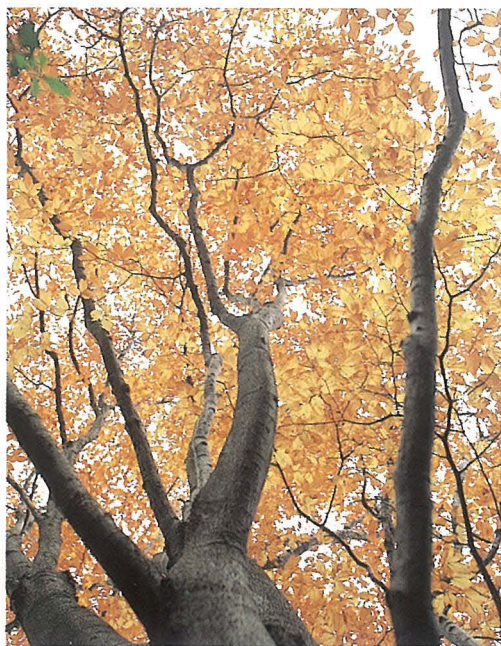
太山寺の照葉樹林



照葉樹林内のシイ林（太山寺）



六甲山のブナ－イヌブナ林

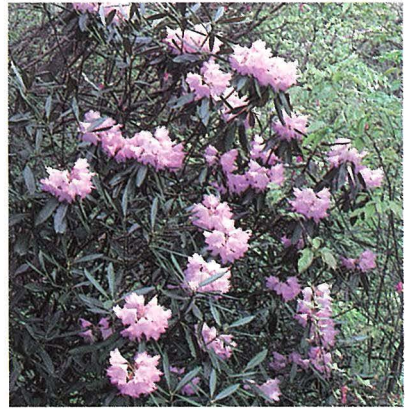


ブナの紅葉

3 神戸の自然植生



アリマウマノズクサ



シャクナゲ



サギソウ



シチダンカ



ユキモチソウ



エビランダ

4 神戸の貴重植物



ハッチョウトンボ



ギフチョウ



ギュリキマイマイ



キベリハムシ

5 神戸の貴重動物



キセキレイ



コサメビタキ



オシドリ



コアジサシ



ウグイス

6 神戸の野鳥



ヨシノボリ



ムギツク



オオクチバス



カワムツ



アカザ



ブルーギル



神戸層群の地層（須磨区流通団地北）



丹波層群の砂岩（住吉川上流）



有馬層群（北区有馬町）



大阪層群の地層 (垂水区小東山付近)



ポートアイランド海底下の泥炭層



西区森友の海成沖積層

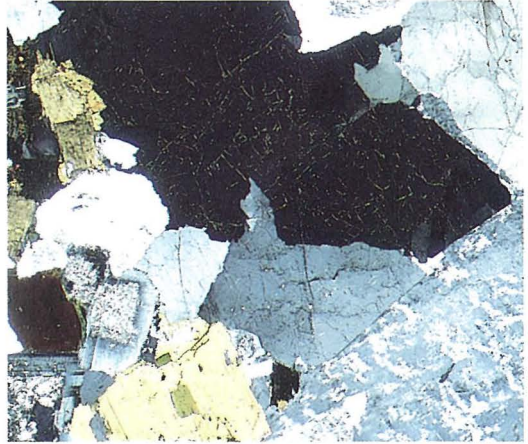


森友の沖積層中のアカホヤ火山灰

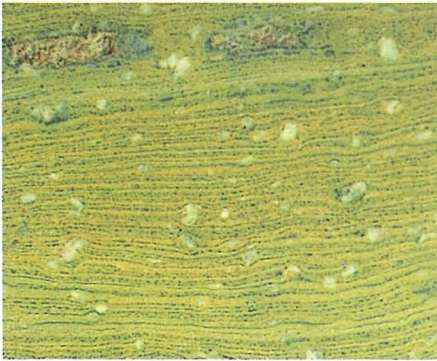
9 神戸の地層 (2)



須磨アルプスに露出する六甲花こう岩



六甲花こう岩の偏光顕微鏡写真



流紋岩の流理構造



流紋岩で構成される丹生山地



六甲山地南麓の断層線崖



布引断層



新神戸駅建設時に発見された諏訪山断層



五助橋断層



五助橋断層の断層破碎帯



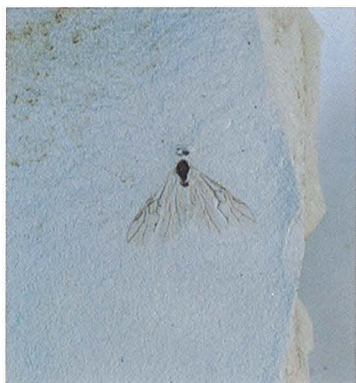
高塚山断層（神戸研究学園都市）



多井畑断層



サルノコシカケ科の新種



ハチの化石



ヌマミズキ

13 神戸層群の化石



第七頸椎



下顎左第三大臼齒



上顎右第三大臼齒



環椎



尺骨

橈骨

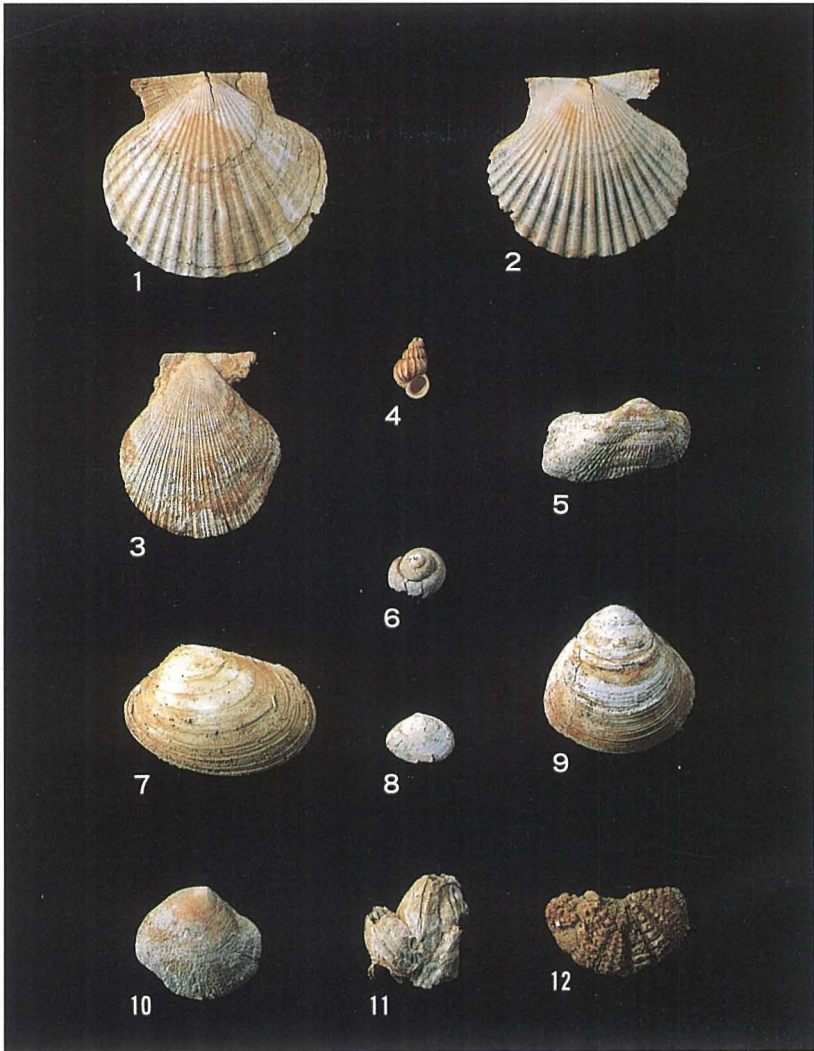


舌骨

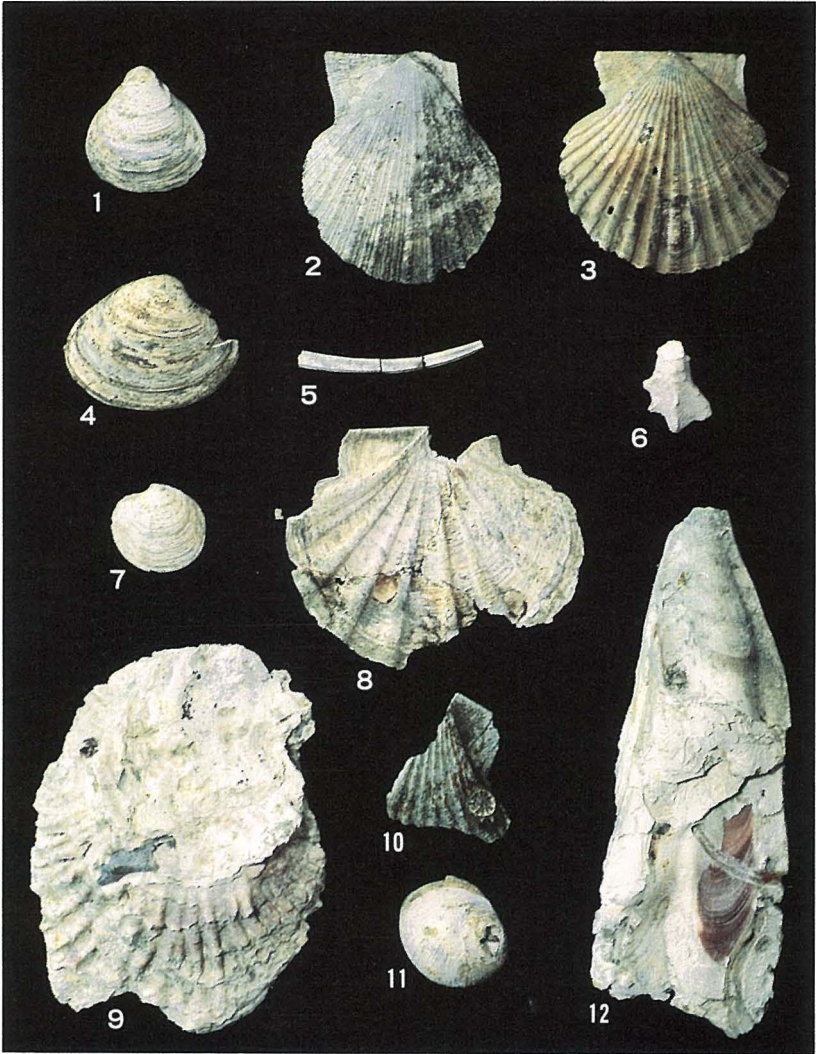


切齒(牙)

14 アカシゾウの化石



1. 2. ムカシチヒロ 3. ハリマニシキ 4. セキモリガイ 5. コベルトフネガイ
 6. コシダカガンガラ 7. アサリ 8. ヒメシラトリガイ 9. ヤマトシジミ
 10. ナミマガシワ 11. フジツボの一種 12. ウニの一種



1. ヤマトシジミ 2. ハリマニシキ 3. ムカシチヒロ 4. スダレガイの一種
 5. ヤカドツノガイ 6. カモノアシガキ 7. ツキガイモドキ 8. イタヤガイ
 9. イタボガキ 10. シオガマサンゴ 11. ツメタガイの一種 12. マガキ

16 高塚山粘土層から産出した化石



17 縄文土器 (灘区篠原遺跡)



18 方形周溝墓と木棺（西区玉津田中遺跡）



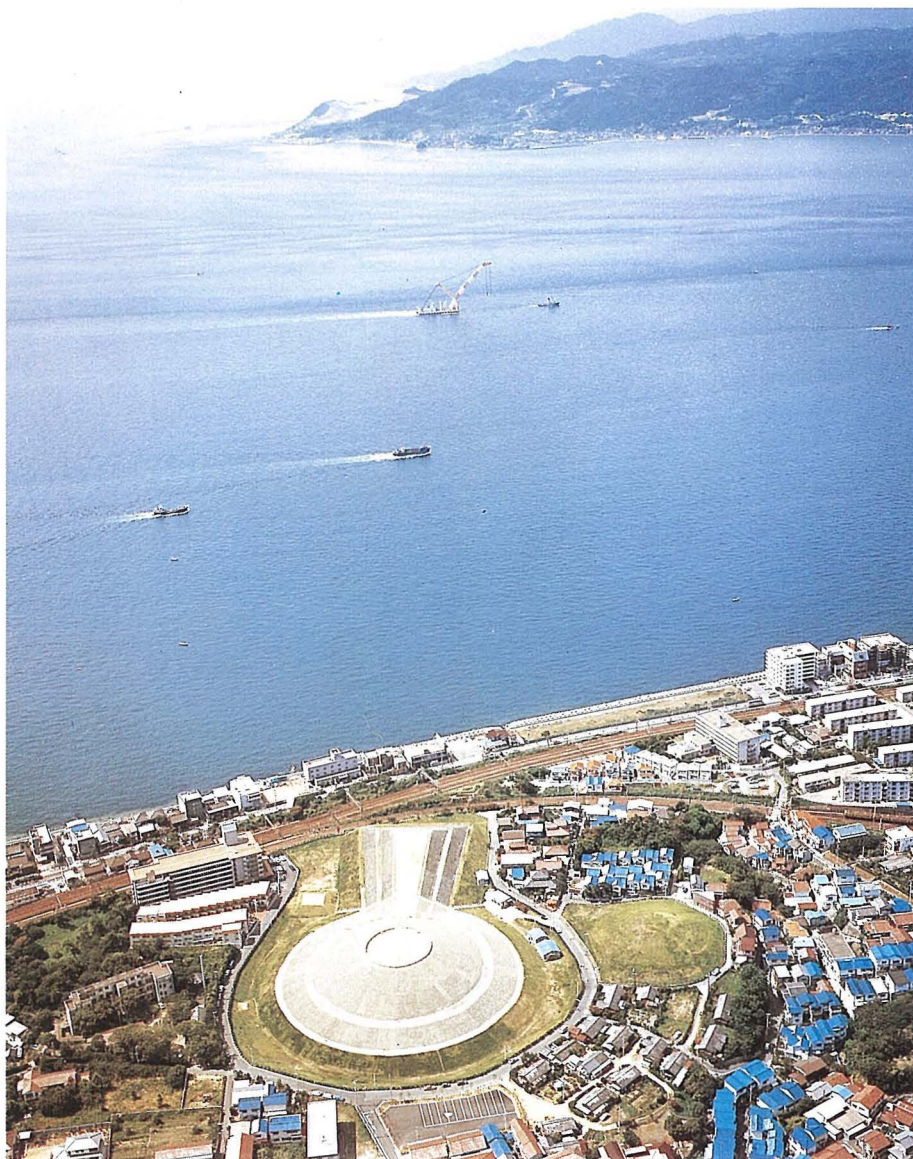
19 桜ヶ丘5号銅鐸 (灘区桜ヶ丘)



20 三角緑唐草文帯四神四獸鏡（東灘区東求女塚古墳）
と画文帯同向式神獸鏡（須磨区得能山古墳）



21 竪穴住居址と復元柱組（北区宅原遺跡）



22 五色塚古墳（垂水区五色山）



23 王塚古墳(西区王塚台)



24 古墳埴輪列と家形埴輪・馬形埴輪（東灘区住吉東古墳）

序

六甲山をいただき瀬戸内海に面する神戸は、豊かな風土に恵まれ、古来、港を中心として発展してきました。ことに幕末の開港後は、世界の文明を受け入れる窓口として、日本の近代化、国際化に先導的役割を果たしてまいりました。

『新修神戸市史』の編集は、市制一〇〇周年記念事業のひとつとして、先人たちのたゆまない努力の足跡をたどり、二十一世紀への文化遺産として、後の世代へ継承していこうとするものです。神戸の歴史の変遷とふりかえり、それを記録にとどめることは、私たちに課せられた使命のひとつともいえます。

神戸市では、これまで三度にわたり延べ一六巻の市史を刊行し、実証的な都市史として高い評価を受けております。しかし、過去の市史は、

現在では文体が難解であったり、合併された町村の叙述がなかったりしています。また、近年における遺跡・遺物の発掘や史料・史実の発見など、歴史学の発展には目をみはるものがあります。さらに、貴重な記録類が散逸しつつあり、これを保存する必要があります。こうした事情から、歴史学の成果をとり入れ、平易で格調の高い神戸市史を新たに編集することが、各方面から求められていました。昭和五十七年に高尾一彦、新保 博、和田邦平、足立忠夫の各氏を委員長とする新修神戸市史編集委員会を設置し、広く史料の収集・保存を行うとともに、執筆にあたっていたいておりました。

『新修神戸市史』が市民の足跡を明らかにし、文化の創造と発展に寄与し、末長く多くの方々にも親しまれることを願ってやみません。

本書の刊行にあたり、編集委員、執筆者の多大のご尽力に深く感謝するとともに、終始ご協力を賜りました資料提供者をはじめ関係者各位に厚くお礼申し上げます。

平成元年四月

神戸市長

宮崎辰雄

凡 例

- 一、『新修神戸市史』歴史編は、「自然」「考古」「古代」「中世」「近世」「近代」「現代」からなるが、この巻は第一巻として「自然」(第一章)第五章「考古」(第六章)第九章)を収める。
- 一、この巻の執筆分担者は、巻末に一覧表で示した。
- 一、本文の叙述は原則として、常用漢字、現代かなづかいを用いた。ただし、歴史的用語、固有名詞、引用文などについては、必ずしもこの原則によっていない。
- 一、本文の叙述は、諸氏の研究成果に依拠しているが、本書の性格上、いちいち出典を示していない。ただ、直接的に援用した場合に限り、本文中に出典を記載した。「自然」「考古」とも巻末に引用・参考文献の一覧を掲げた。なお、「自然」では、繁雑を避けるため、本文中は省略記号を用いて出典を示した。
- 〔省略記号の例〕 神戸市役所編『神戸市史 本編 総説』(大正十年刊)は、(神戸市役所、一九二一)と表記している。
- 一、人名の敬称はすべて省略した。
- 一、難訓または誤読のおそれのある漢字は、各章の初出のところで、ふりがなを付した。神戸

市内の地名の読みは、基本的には神戸市総務局区政課編『神戸市町名一覽表』（昭和六十三年）によった。

一、文中の写真、図、表は、それぞれ通し番号を付した。これらの掲載と提供に協力していただいた関係機関、団体ならびに諸氏の名称は、原則として巻末に掲げた。

一、資料提供・協力者の一覽は巻末に掲げた。

題字 神戸市長 宮崎辰雄

新修神戸市史 歴史編Ⅰ 自然・考古

目次

第一章 都市化の進展と神戸の自然

第一節 よみがえった六甲の緑……………二

1 明治初期の六甲山地……………二

章のはじめに 荒廃した六甲の記録 江戸時代の六甲の荒廃 砂防植林の開始

2 昭和十三年水害と緑の回復……………二

土砂災害の要因 昭和十三年水害 水害後の砂防植林

第二節 都市域の拡大と自然の変化……………一五

1 都市化現象と帰化植物……………一五

都市的土地利用の変化 タンポポの分布と都市化現象

2 港湾機能の拡大と海岸生物……………二三

シルビア号による神戸港の調査 自然海岸から海上人工島へ 埋め立ての進捗と
貝類の消長

3 水生生物による水質の評価 二六

高度経済成長と水質汚濁 サワガニが示す清流域

4 着生植物と都市気候 三三

着生植物の分布 二酸化硫黄の減少と着生植物の回復

第二章 神戸の生物とその生態

第一節 生物の生態と環境 三六

1 神戸の自然と生物 三六

生物からみた自然の特徴 六甲山地 西神戸の丘陵地 市街地

2 生態的環境の特徴 三三

地形・地質上の特徴 気候上の特徴

第二節 山地・丘陵の生物とその生態 三三

1 山地の植物 三三

六甲山の森林植生 アカマツ林の変遷 アカマツ林の立ち枯れ アカマツ林と
コナラ林のすみわけ

第三節

市街地の生物とその生態

2 山地・丘陵の動物……………五

神戸の昆虫相 植生と昆虫 神戸の蝶 藍那と高取山の野鳥
モグラとネズミ ニホンザル イノシシ

1 市街地の緑……………七

市街地の緑化 市民の木、市民の森

2 帰化植物……………六

港と帰化植物 帰化植物の特色 帰化植物の侵入拠点と伝わり方 市内各地の
帰化植物の分布の傾向

3 市街地の昆虫……………八

市街地と昆虫 市街地と郊外地の昆虫相

4 市街地の野鳥……………三

野鳥の町への進出 住宅地と小緑地の野鳥

5 家の中の動物……………六

ベストとネズミ 衛生害虫 新しいタイプの害虫

第四節

河川・池沼の生物とその生態

1 河川・池沼の生態系……………三

河川の生態系 河川の汚濁と自浄作用 溜池と湧泉 ウォーターフロントと水生生物

2 河川の水生生物 九六

六甲山南麓の都市河川 西北神の河川

3 溜池に生育する水生植物 一〇一

神戸の溜池 高等水生植物(水草) 六甲池沼群の水草 富栄養化の進んだ池の水草

4 河川・池沼の魚類 一〇五

河川の魚類相 清流にすむ魚 平瀬にすむ魚 淵に多い魚 池・沼にすむ魚

外来魚の侵入 希少魚アカザ

第五節 海の生物とその生態 一〇

1 磯・潮間帯の生物 一〇

神戸の海藻 神戸市沿岸の磯の海藻 海藻の利用 磯の動物

2 港湾の生物 一九

港湾の海藻 生物指標としての海藻 港湾のプランクトン 港湾の付着生物

3 海中の生物 二四

海中のプランクトン 底生生物 海中の魚貝類

第六節 貴重な生物とその保護……………一三五

1 貴重な植物……………一三五

限られた場所に分布 種の分布の限界地 模式産地 減少傾向にある種 生育地の特殊性 生

2 貴重な植生……………一三九

自然植生 コジイ林 カン林 ブナ・イヌブナ林

3 貴重な動物……………一四一

外国人による新種貝類の発見 コウベマイマイ ギュリキマイマイ マヤサン
マイマイ 昆虫類

4 自然の保護・保全……………一四五

都市の生態系 環境の保全

第三章 神戸の地形と地質

第一節 神戸の土地の生い立ち……………一五〇

1 六甲と大阪湾に象徴される神戸の地形……………一五〇

六甲山地の形 ランドサットで見た六甲とその周辺

2 神戸の地質概説……………一五二

基盤岩と被覆層 最も古い基盤岩、丹波層群 花こう岩類と流紋岩類 古い方

の被覆層、神戸層群 新しき方の被覆層、大阪層群

第二節 激しい火成活動・流紋岩と花こう岩……………一六五

1 火の国、中生代の流紋岩の噴出……………一六五

白亜紀の火成活動 火成活動の始まりと第一期火山活動 カルデラ湖の誕生

カルデラを埋めた第二期火山活動 溶岩の流出と溶結凝灰岩 第二カルデラ湖の

成立 第三期火山活動と巨大カルデラの形成 カルデラ壁と岩屑流

2 大規模なマグマの上昇と花こう岩類……………一八一

大規模なマグマの上昇 布引花こう閃緑岩と土橋石英閃緑岩 六甲花こう岩と御

影石 六甲花こう岩を貫く岩脈群 火成活動と関連する地下資源や温泉

第三節 被覆層の神戸層群……………一八七

1 神戸地域の神戸層群……………一八七

古神戸湖の誕生 神戸層群の分布 神戸市西部の神戸層群

2 三田地域の神戸層群……………一九二

三田盆地の神戸層群 神戸層群の地質年代

第四節 大阪層群と六甲変動……………一九五

1 第四紀層、大阪層群の内容と区分……………一九五

大阪層群の層序 三重層群の意味 六甲変動と地形の変遷

2	六甲山地の断層系	二〇七				
	丸山衝上断層と六甲の断層系	五助橋断層と大月断層	渦ヶ森断層と土橋断層			
	和田岬断層と摩耶断層	諏訪山断層と布引断層	会下山断層と長田山断層	須磨断層・高取山断層・横尾山断層(塩屋断層)	有馬―高槻構造線	六甲断層地塊
	近畿トライアングル	活断層				
3	山地と盆地―六甲変動	二〇六				
	大阪盆地と大阪湾盆地	東六甲と西六甲				
	第四章 神戸の自然史と化石記録					
	第一節 地層と化石が語る自然の歴史	二〇三				
1	自然史の研究法	二〇三				
	自然史の鍵・地層と化石					
2	神戸の自然史の概観	二〇三				
	自然史調査の成果	自然史の概観				
	第二節 日本列島誕生期の神戸層群	二〇六				
1	神戸層群の海成層	二〇六				
	多井畑の貝化石					
2	神戸層群の植物化石	二〇六				

神戸層群のフローラ(植物相) 神戸層群から特徴的に産出する種 示準化石コン
プトニア 中国中南部に自生する種 現在の日本の森林をつくる珪化木の化石
自然史からみた神戸層群の位置づけ

第三節 人類出現期の神戸の自然……………二四〇

1 アカシヅウの発見……………二四〇

伊川谷町のアカシヅウ アカシヅウの生息した年代 明石動物化石群の特徴
アカシヅウの来た道

2 メタセコイアの森と湖……………二四四

メタセコイアの森 生ける化石メタセコイア 湖の広がり

第四節 古大阪湾の拡大と明石海峡の誕生……………二五九

1 朝霧海進と舞子貝層……………二五九

海の拡大を告げる舞子貝層 生ける化石ムカンチヒロ 川西粘土層の示す古環境

2 高塚山海進と明石海峡の誕生……………二六三

高塚山層の示す温暖な気候 メジロザメの歯とシオガマサンゴ 貝化石群とフジ
ツボ 有孔虫と貝形虫による環境解析 珪藻が語る湖から海への変化 大規模
な森林の移動

3 明石海峡の誕生……………二七三

高塚山層の広がり 寒冷・温暖気候の繰り返し

第五節 最終間氷期から現在の自然へ……………二七五

1 現在の自然に近い最終間氷期……………二七五

現在に似た自然環境 今より広がった大阪湾 針葉樹・広葉樹混生の暖温帯林

2 きびしい自然の最終氷期……………二七八

旧石器人の登場と寒冷気候 冷涼湿潤だった前半の寒冷化 乾燥化と小温暖気候

のおとずれ 寒冷気候のおとずれ 寒冷気候の緩和

3 現在の自然の成立……………二八五

一万年前の神戸の自然 八千年前ころの自然

第五章 神戸の気候・水・大気

第一節 地域の気象特性の概観……………二九二

1 神戸の気候と気象観測……………二九二

気象の地域特性 気象の観測史

2 気象統計と地域類型……………二九八

気象統計の扱い方 気候の地域類型

第二節 気候の経年変化と気象特性の地域分布……………三〇三

1 気象台観測値からみた経年変化……………三〇三

気温の変化	日照時間の変化	降水量の変化	平均風速と風向の変化	三〇		
2 気象特性の地域的分布	最高・最低気温の平均値	最高・最低気温の極値	年降水量と日最大降水量	三〇		
風向の分布						
3 標高と気温・降水量の相関	標高と気温・降水量	高度と年平均降水量	高度と日降水量の極値	三八		
4 異常な気象観測値	異常気象の出現	日最高・最低気温の異常値	日最大風速の異常値	日降水量の異常値	三二	
一雨降水記録	雨季連続無降水記録					
第三節 水質・大気・地下水				三八		
1 水質の変化	神戸の水域	河川の水質	湖沼の水質	海域の水質	水環境と生物	三八
2 大気質の変化	大気汚染と汚染物質	大気汚染の調査	昭和三十七～四十年代中ごろの大気汚染	昭和四十年代中ごろから五十年代中ごろ	昭和五十年代中ごろから現在	三四
3 地下水	神戸の地下水	コウベウォーターと宮水	沖積平野の水質	神戸層群の水質	大阪層群の水質	三四一

第六章 旧石器・縄文時代

第一節 最古の狩人たち

- 1 明石原人の発見……………三五四
更新世と化石人類 西八木発見の「旧石器」 「明石原人」の発見 西八木発見「旧石器」の再検討 日本の更新世人類化石 西八木での再発掘調査 日本の前・中期旧石器
- 2 ナイフ形石器の登場……………三六四
後期旧石器時代のはじまり 市内発見のナイフ形石器 旧石器時代の終末

第二節 縄文人のくらし

- 1 弓矢と土器の出現……………三六九
縄文時代のはじまり 縄文時代の時期区分 六甲山地南麓の早期の遺跡 早期の遺跡分布
- 2 縄文海進……………三七三
縄文海進期の汀線 前期の遺跡の分布
- 3 東の土器・西の土器……………三七六
篠原遺跡 雲井遺跡 宇治川南遺跡
- 4 縄文時代の集団領域……………三七九

六甲山地南麓の遺跡分布 明石川流域の遺跡分布 縄文人の集団領域

第七章 弥生時代

第一節 水稻農耕の開始と発展

1 最古の農耕集落……………三六六

水稻農耕技術の伝来経路 弥生時代の時期区分 市内最古の農耕集落 北青木遺跡 六甲山地南麓の前期の遺跡 貯蔵穴が群在する楠・荒田町遺跡 砂堆上に並ぶ集落 水田が発見された戎町遺跡 明石川流域の前期の遺跡 武庫川中流域の前期の遺跡

2 中核的集落の成立……………三九八

中核的集落の分布 六甲山地南麓 明石川流域 三田盆地

3 石器と土器が語る交流……………四〇三

石器の原産地推定 西神戸の石器原材料の産地 六甲山地南麓 北神戸地域
前期の土器の交流 中期の土器の交流

第二節 高地の村・低地の村……………四一〇

1 高地性集落の分布……………四二〇

六甲山地南麓 明石川流域 三田盆地 高地性集落の性格

第三節 祭祀と埋葬

2 低地の村と焼失竪穴住居群 四二

集落立地の低地化 西神戸地域の低地の集落 倭国内乱と同時期の焼失住居群

1 銅鐸の祭り 四六

銅鐸の祖型 最古の銅鐸 西摂平野の銅鐸出土地 中期初頭の銅鐸 中期中
葉以降の銅鐸 最後の銅鐸 銅鐸の祭祀圏 桜ヶ丘遺跡の性格 伝大月山出
土銅鐸 三田盆地の銅鐸鋳型 銅鐸の祭り 銅鐸の埋納状況 銅鐸埋納の意
味 銅鐸の絵画 農耕讃歌

2 武器形祭器と銅鏡 四四

同一化する銅剣と銅鐸の分布圏 金属器を模した石剣・石戈 大阪湾型銅戈
弥生時代の銅鏡

3 共同墓地から墳丘墓へ 四九

弥生時代の墓制 土壙墓群 墳丘墓 大形墳丘墓

第八章 古墳時代

第一節 前方後円墳の成立と発展

1 最古の古墳 四八

古墳の出現 前期古墳の特色 六甲山地南麓のへボン塚古墳 東求女塚古墳

第二節 群集墳の時代……………

- 1 縮小する前方後円墳……………
小形前方後円墳 住吉東古墳 十善寺古墳 大蔵山2号墳 出合古墳群
金棒池1号墳 天王山第3号墳 鬼神山古墳 武庫川中流域の前方後円墳……………
五〇三
- 2 木棺直葬墳と横穴式石室墳……………
群集墳の出現 六甲山地南麓の群集墳 山田川流域の群集墳 大塚ヶ平群集墳
狩口台群集墳 深谷群集墳 たつか群集墳 西脇群集墳 明石川流域の群
集墳 神出の群集墳 神戸北部の群集墳 終末期の古墳……………
五一一
- 3 豪族の居館と農民の家……………
古墳被葬者の居館 家形埴輪 家屋文鏡 掘立柱建物群 松野遺跡 カマ
ドをもつ堅穴住居……………
四九五
- 2 巨大古墳の時代……………
処女塚古墳 西求女塚古墳 夢野丸山古墳 会下山二本松古墳 得能山古墳
山田川流域の前期古墳 明石川流域の前期方墳 天王山第4号墳 天王山第5
号墳 西神ニュータウン内の前期方墳 明石川流域最古の前方後円墳 武庫川
中流域の前期古墳……………
四六〇

第九章 神戸の遺跡

第一節 六甲山地南麓の遺跡

1	東灘区の遺跡	五三				
	深江北町遺跡	森銅鐸出土地	坂下山遺跡	森北町遺跡	生駒古墳	生駒
	銅鐸出土地	北青木遺跡	金鳥山遺跡	保久良神社遺跡	へボン塚古墳	
	本山遺跡	渦ヶ森銅鐸出土地	荒神山遺跡	住吉宮町遺跡(坊ヶ塚遺跡)	住	
	吉東古墳	東求女塚古墳	郡家遺跡	処女塚古墳	東灘区その他の遺跡	
2	灘区の遺跡	五五				
	桜ヶ丘銅鐸・銅戈出土地	桜ヶ丘遺跡B地点	伯母野山遺跡	篠原遺跡	西	
	求女塚古墳	灘区その他の遺跡				
3	中央区の遺跡	五三				
	布引丸山遺跡	生田遺跡	日暮遺跡	雲井遺跡	宇治川南遺跡	中央区の
	その他の遺跡					
4	兵庫区の遺跡	五七				
	楠・荒田町遺跡	東山遺跡	河原遺跡	夢野丸山古墳	会下山二本松古墳	
	湊川遺跡	兵庫区その他の遺跡				
5	長田区の遺跡	五八				
	林山古窯跡	長田神社境内遺跡	三番町遺跡	神楽遺跡	長田区その他の	

	遺跡	五六
	須磨区の遺跡	五六
	松野遺跡 得能山古墳 戎町遺跡 鷹取町遺跡 須磨区その他の遺跡	五六
第二節 明石川流域とその周辺地域の遺跡		
1	垂水区の遺跡	五九三
	五色塚古墳・小壘古墳(史跡) 歌敷山東古墳・歌敷山西古墳 舞子浜遺跡 舞子古墳群 舞子東石ヶ谷遺跡 投ヶ上銅鐸出土地 大歳山遺跡 狐塚古墳 垂水区のその他の遺跡	五九三
2	西区玉津地区の遺跡	六〇六
	居住・小山遺跡 玉津田中遺跡 出合遺跡・亀塚古墳 王塚古墳 高津橋・岡遺跡 今津遺跡 新方遺跡 吉田遺跡 吉田南遺跡	六〇六
3	西区伊川谷地区の遺跡	六二〇
	頭高山遺跡 柿谷古墳群 池上口ノ池遺跡 池上北遺跡 鬼神山古墳 天山山古墳群 瓢塚古墳	六二〇
4	西区榎谷地区の遺跡	六三一
	西神ニュータウン内第65号地点遺跡 西神ニュータウン内第62号地点遺跡 青谷遺跡	六三一
5	西区押部谷・平野地区の遺跡	六三五

第三節

六甲山地北部地域の遺跡

6

西区神出地区の遺跡

新内古墳

雌岡山周辺の遺跡

西区のその他の遺跡

中村古墳群

1 タウン内第55号地点遺跡

鍋谷池遺跡

黒田遺跡

常本遺跡

西戸田遺跡

ニュータウン内第47号地点遺跡

西神ニュータウン内第41号地点遺跡

西神ニ

西神ニュータウン内第40号地点遺跡

西神ニュータウン内第50号地点遺跡

遺跡 西神ニュータウン内第33号地点遺跡

西神ニュータウン内第38号地点遺跡

内古墳群 西神ニュータウン内第30号地点遺跡

西神ニュータウン内第32号地点

道心山1号墳

元住吉山遺跡

藤原橋古窯跡

養田中の池遺跡

堅田神社境

1

北区道場・長尾地区の遺跡

中野古墳群

塩田遺跡

稲荷神社裏山古墳群

尼崎学園内古墳群

オキダ古

墳群 北神ニュータウン内第2・3号地点遺跡

北神ニュータウン内第4号地点

遺跡 北神ニュータウン内第9号地点遺跡

北神ニュータウン内第13号地点遺跡

北神ニュータウン内第20号地点遺跡

北神ニュータウン内第45号地点遺跡

宅原

遺跡 定塚墳墓群

2

北区山田・淡河地区の遺跡

山田・中遺跡

淡河城下層遺跡

北区のその他の遺跡

六六一

六三二

六六一

六五五

〔卷末付録〕

執筆者一覧

写真、図、表一覧

参考文献一覧

〔別添付図〕

1 神戸市地形図

2 神戸市地質図

3 神戸市植生図

4 神戸市遺跡分布図